

＜先週の説教から＞

『ルカ ⑩ 一田舎者の正体を見た！』

列王記上 17:8~16 ルカ福音書 4:22~30

武田真治牧師

ルカによる福音書の冒頭に「(イエス様について) 多くの人が既に手を着けています (=書いています)」とありますように、想定されていることは、ルカさんがこの福音書を書く際におそらく前もって『マルコによる福音書』を知っていて、読んでおり、参考にしてこの福音書を書いたであろうということです。その点は4章以下によく現れています。ここはマルコ福音書の1章以下とほとんど同じ内容になっているからです。ここは、ルカさんがマルコ福音書を尊重し、敬意を持って引用している証拠となっています。ただ、マルコはイエス様の最初の具体的な行動として、四名の弟子の召命を記していますが、ルカはその出来事は5章に後回しにしています。その代わりに、何よりもまず報告していることが《故郷ナザレでの伝道の出来事》なのです。ということは、いかにルカさんがこの出来事を重要だと見ているか、そしてこれからイエス様の言動を読んでいく上で、頭に入れておくべき点をいくつか、ここで示してくれていると言い得るのです。

一つは、伝道の最初として、イエス様が会堂での礼拝に於いて、聖書を読み、お話をされている点です。これこそ、何よりの伝道の形・方法ではないかということでしょう。そして読まれたイザヤ書61章冒頭の言葉こそ、イエス様ご自身が目指されて居られる“救いの在り方”を指している！

もう一つは、故郷の人たちの反応です。最初は讚美して「イエスを褒め、恵み深い言葉に驚いた」のでした。ところが、イエス様が自分たちの要求に従わないことや自分たちを特別扱いしてくれないと分かると、今度は手の平を返して「会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し(崖から)突き落とそうとした」のでした。この姿は、単に故郷の人たちだけでなく、この後のユダヤ人・律法学者・ファリサイ人・エルサレムの住民等に次々と起る反応

そのものではないでしょうか。そして最後にはまさに《十字架上の死》が待っていることを暗示している出来事です。

まさに、ルカはこの故郷の人達の姿を“反面教師”として、これから、この福音書を読んでいくためにどのような態度が必要なのかをここで最初に教えてくれているのです。

それは、①イエス様は民族や地域や人種を越えて“すべての人に開放の福音を告げる方”であること、②自分たちの思い通りに動いてくれなければ救い主として認めないと考えないこと、③自分たちだけを特別扱いしてくれないと反対する側に立たないことの3点と言い得るでしょう。いわゆる『田舎者根性』と言われるものかもしれません。私のような田舎者にはいやな言葉ですが、育ちや居住地に関係なく、気を付けなければと思わされています。

\*\*\*\*\*

【今週の集会】

\*聖書研究・祈禱会 I. 12月18日(水) 20:00  
II. 12月19日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈禱主題: クリスマスを覚えて

担当者: (水) 羽倉 (木) 岡本

祈りに覚える人: 斉藤さん 齋藤さん

\*ハンナの会 12月17日(火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女50 計67  
祈禱会 I. 男4 女2 計6 II. 男2 女10 計12  
日曜学校 幼稚科6 小中科9 計15

\*\*\*\*\*

【次週礼拝】\*クリスマス礼拝 12月22日(日)

聖書: 箴言 4:18~19

ヨハネによる福音書 8:12

説教: 「クリスマス礼拝—命の光を持つ者に」

武田真治牧師

讚美歌: 242(1~4)、260(1)、32、聖歌隊262、  
256、271、78(1~2)、91(1)

【次週当番表】

司式: 岩佐長老 奏楽: 須田 礼拝: 茨木長老

配餐: 羽倉 相浦 飯田 茨木 各長老

献金: 松田 松山 受付: 金刺 坂田

会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板: 中村 週報: 飯島 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・クリスマス愛餐会

・礼拝/伝道/社会/牧会 各委員会

# 週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 12月 15日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>